

## 分析研究『正則文部省英語讀本』（その1）

多賀 徹哉

英語教科書は英語教育では中心的な役割を果たしてきた。幕末期においては英語学習は蘭学同様に即、西洋の知識や技術を取り入れる手段につながった。また、明治時代に英語教育が学校教育に取り入れられると、英語教科書が唯一の教材であり、これなくしては英語の授業は成り立たなかったと極論できそうな状況であった。従って当時の英語教科書の内容を研究することで英語教育の実態を探ることができるし、教科書の扱い方からは日本の英語授業のあり方を映しだす鏡を得ることになろう。日本の英語教育は明治初期から、訳読式のやり方が大勢であった。従って、1921年（大正12）のパーマーの来日と彼の活動による英語教育に対する意識の高まりはエポックメイキングな出来事であった。しかし、パーマー以前から英語教育界の中では、訳読式授業の弊害が批判され、音声重視の授業の提唱がなされていたのである。極めて大ざっぱな言い方になるけれども、パーマーほど整理されてはいないし、パーマーの時期ほど実践されてはいなかったが、パーマーの提唱の先覚者たちが確実に存在したのであった。そして、外山正一もまたその一人であったのである。彼の著書でもあり、先覚的な教授法を提唱した『英語教授法』の内容分析、そして、彼が編集に加わった『正則文部省英語讀本』の分析、『英語教授法』の主旨がどのように反映されているかの研究が、今後の英語教科書、英語教授法の指針のひとつとなり得るかもしれない。

### 【1】 外山正一略伝

- |                                      |                             |
|--------------------------------------|-----------------------------|
| 1848（嘉永元）幕臣の子として誕生。                  | 1877（明治9）帰国。開成学校教授。         |
| 1861（文久元）蕃書調所入学。                     | 1889（明治22）『正則文部省英語讀本』出版     |
| 1866（慶應二）英国留学。*                      | 1897（明治31）東京大学総長。『英語教授法』出版。 |
| 1868（明治元）帰国。静岡学問所教授。                 | 1898（明治31）文部大臣に任じられる。       |
| 1870（明治3）外務省弁務少記、駐米。                 | 1900（明治33）死去。               |
| 1871（明治4）Ann Arbor High School 入学。   |                             |
| 1872（明治5）University of Michigan 入学。* |                             |

### 【2】 『英語教授法』の内容

#### （1）構成

『英語教授法』の構成は以下の通りである。

- |                   |                    |
|-------------------|--------------------|
| 緒言                | 第四章：外國語ノ課業ニ於ケル一大弊風 |
| 第一章：外國讀本及是レニ類似ノ讀本 | 第五章：翻譯ノ仕方          |
| 第二章：文部省正則英語讀本     | 第六章：教師ヘノ注意         |
| 第三章：正則英語讀本使用法     |                    |

（注）\* 中村正直を団長とする幕府留学生一行の一員。同行者には後の菊地大麓などがある。

\*\* 同大学の日本人留学生第1号といわれている。

## (2) 各章の内容

- (a) 緒言：ここでは出版の動機が述べられている。それは、「中学卒業生の英語の学力不足が問題にされているが、その原因は（１）教師自身の實力不足、（２）教授法の不良、（３）教科書の不適當ということである。本書では（２）と（３）を取り上げ、不適當な教科書を用い、そのためもあって教授法も稚拙ならざるをえない現状を矯正したい」というものである。
- (b) 第一章：輸入教科書やそれを模倣した教科書は日本人の初学者に不便であることを述べ、その理由をあげている。外山は６項目に分けて説明しているがここでは４項目に分けてまとめておく。
- ①輸入教科書は英米の（英語に通じている）子どもたちのために作られたものであるので、日本人の初学者が直面する困難点に注意が払われていない。
- 例）初級用の教科書から重文や複文が見られる。
- 文の長短に考慮がない。
- 冠詞についての配慮がない。
- いろいろな構造の文が出てきて生徒は混乱する。
- ②輸入教科書は『訓練』という点に考慮が払われていない。
- ③輸入教科書を使用すれば、訳中心授業や、変則授業に陥る傾向が出てくる。またそれは教師にとってラクな授業でもある。
- ④英語教育の効果があがらないもうひとつの理由は訳読、発音、文法などが別々に教授されているからである。
- (c) 第二章：ここでは、『正則文部省英語讀本』の特徴を解説している。
- 内容は「Dreyspring の独語教科書を参考にして編集しているが、英国の子どもが独語を学ぶのと、日本の子どもが英語を学ぶのとでは困難さが違うので、日本人の实情に合うよう工夫を加えた。文法を段階的に学べるように工夫し、丁寧な『訓練』を与えるようにした」ことが述べられている。
- (d) 第三章：『正則文部省英語讀本』の使用上の注意について詳述した章である。いわば、教授マニュアルである。要点をまとめると次のようになる。
- ①『正則文部省英語讀本』は正則的に授業をするためのものである。
- ②教科書上の指示の説明。（これは次の教科書分析のところであらためて解説したい）
- ③会話練習は、始め教科書を見ながら行うが、後には教科書を閉じて行うことも必要である。
- 教科書を暗記する必要はない。機械的な暗記は必要ない。
- ④どんなに簡単な文、句も生徒が覚え込むまでは何度も反復練習させる。
- (e) 第四章：この章では英語教育の効果があがらない別の理由について解説している。生徒の實力に不相応な教科書を使って、生徒の能力でこなせる以上の分量の内容を、生徒が十分に理解していないうちに訳をつけるだけで終えて次へ進む授業が、ずいぶん多く行われている。この姿たるやまさに「大人ガ小兒ノ手ヲ挽キナガラ。驀地ニ馳セ行ク如クニ。」前へ前へと進み行くのである。

- (f) 第五章：教科書の訳（翻訳）については直訳をよしとしている。外山の言う直訳とは原文の言葉のニュアンスを失うことなく、日本語として理解できるものということである。
- (g) 第六章：外山は教師に対して次のような注意を行っている。中には行政側への提言もある。
- ①英語の授業がラクであるという偏見を叱責している。そして、教材研究をしっかりとやって熱心に教えよと注意している。また、下級生ほど授業は大切であるとも述べている。
  - ②教科書使用の順序は最初に、『正則文部省英語讀本』の類のものをやって、力をつけてから輸入教科書に入るべきである。
  - ③中学卒業生の英語力の目安は Peter Parley's Universal History (New York, 1870) がかなり分かる程度で十分である。英語教員の実力の目安は National Readers (?, 18?) がかなり教えられれば力のある教師といえる。
  - ④教員改良が急務であるが、これは、待遇を考えなければならない。
  - ⑤教員は英語力を磨き、教授法を研究しなければならない。

(3) 『英語教授法』における外山の英語教授法と教科書論

あらためて、外山の提唱する英語教授法と教科書論をまとめてみる。

(a) 外山の英語教授法

- ①音声によく注意しながら、耳、口、目、手を活動させる。
- ②反復練習をしっかりとさせる。(音読→訳→何度も音読)
- ③音読、訳、会話、文法などを総合的に教える。

(b) 外山の英語教科書論

- ①初級用のものは、日本人の事情にあったものを使用すべきだ。
- ②生徒の実力に合ったものを使用すべきである。
- ③文法的配慮があるべきである。
- ④ひとつの教科書で音読、訳、会話、文法などが教えられるものであるべきである。
- ⑤特に『訓練』の工夫があるべきである。では、外山の教授法や教科書論はどこからきたのかということも問題となろう。この点に関しては詳しい資料は見当たらない。『正則文部省英語讀本』の編集に携わった B. H. Chamberlain の影響があったと推察される資料がある程度である。また、当然のことながら、外山の留学体験、教師としての経験も活かされているであろう。

#### 【4】『正則文部省英語讀本』の分析

1. 『英語教授法』と『正則文部省英語讀本』の前後関係と『英語教授法』出版の意味

外山の略年表からわかる通り、『正則文部省英語讀本』の出版のほうはやい。従って、『英語教授法』は『正則文部省英語讀本』編集の主旨を反映したものであると見ることができる。

筆者は『英語教授法』出版の意味を次のように見ている。

- ①世に行われている外山から見れば間違った教授法に対する警鐘であり、理想的な教授法の提案である。

②外山によれば、教科書もまた、間違っただ教授法をのさばらせて原因のひとつであるので、外山の提唱する教授法にかなう理想的教科書、即ち『正則文部省英語讀本』の宣伝及び、使用法の具体的提示によってこの教科書及び、教授法の普及のてだてが必要であった。

②については『英語教授法』中、2章を『正則文部省英語讀本』にさいていることから明らかであろう。

## 2. 英語教科書の使用状況

この点については今のところ詳しく調査をしていないので、断定はできないが、明治初頭から輸入された教科書が使われていた。前述の2例はよく使われたようである。明治30年頃からは日本人によって編集されたものが大勢を占めるが、『正則文部省英語讀本』のような編集意図を持つものは少なかったのではないかと思われる。なお、『正則文部省英語讀本』自体の利用状況も、詳しくはつかんでいないが、多くはなかったのではないかと思われる。

## 3. 正則と変則

正則とか変則とかいう言葉の意味であるが、歴史的経緯は省略して、外山のいうところの正則とは「音声を重視し、生徒が英文を和訳しなくても意味が理解されるように教授する方法」であり、変則とは「文章の意味を理解することに全力を傾注し、発音を無視したやり方」と分けて考えればよい。

## 4. 構成

『正則文部省英語讀本』は全5巻からなっている。本稿では第1巻について分析を行いたい。以後『正則文部省英語讀本』は巻1を表す。

### Introductory Remarks (英文)

I. 編集目的として、この教科書で“Think in English”を達成したいことをあげている。

II. 指示の説明（『英語教授法』中の説明と合わせて解説したい）

A	The Teacher The Students	反復音読を丁寧に行い、次に意味を説明する。
	The Teacher The Students	まず、先生が問の文を読み、生徒が答える。
	The Students The Teacher	次に、生徒が問の文を読み、先生が答える。
B	To be read across	音読（発音）練習に使う。意味は与えない。
	Slate Work	書写の練習をする。
	To be named	Alphabet の読み方を練習する。
	Dictation	教師が英文を読み、生徒は書き取る。

これだけでも、音声を重視し、かつ、同じ教科書で発音、訳、書き取りなどを行おうとしていることが窺えるであろう。具体的な内容についてこれから分析していきたいが、以下、末尾の一覧表を参照されたい。

## 5. 分析

(a) 語彙（末尾の表1は一部分のみ掲載している） 語彙の分析にあたっては教科書の指示

の別に、上記のようにAグループとBグループに分けてみたい。活用形も1と数えた。

Aグループ：教科書に取り上げられている語を拾い出すに当たり、仮説として、「日本人の生徒の生活に密着した語が取り上げられているのではないか」ということと「応用表現が豊かになるような語が配列されているのではないか」ということの2点を設定した。

[分析結果] 使用された名詞：130 動詞：52 疑問詞：6 形容詞：20

前置詞：15 副詞：18 冠詞：3 その他：4

活用形も含めた数であるが、手もとにある中学1年生の英語教科書で使用されている語彙数と比べてもはるかに少ない。逆に言えば、少ない語彙を使って（語彙に対する負担を少なくして）徹底的に構文を反復練習する意図が窺える。

「生活に密着した語」については、玩具に、独楽、凧をあげてはいるが、学校生活に必要なものが極めて少ない。筆者は名詞の選択に当っては「生活の必要性よりも、To be read across との兼ね合いを優先させたのではないか」と見ている。例えば、tin, pin などすぐにも必要とも思えないが、早めに出てくる。そのかわり生徒の目の前にはずの slate（石版）や book は遅れて出てくるのである。「応用表現」を豊かにするには形容詞をいろいろとり揃えるのがひとつの方法であろう。しかし、『正則文部省英語讀本』では非常に少ない。たとえば、色はredのみである。仮説を裏づけるような証拠を見出すことはできなかったわけである。

Bグループ：表3には例として4レッスンのTo be read acrossに取り上げられた語を載せた。つづり字のパターンと発音を、練習によって帰納的に身につけさせる意図があるようだ。現代の教科書には見当たらないやり方だろうが、この方法の効果について興味がわく。

#### (b) 構文、文法

(表2) 外山が『英語教授法』中で豪語している通り、文法的な配慮が窺える。

- ①ほとんど単文である。第5文型の文はない。
- ②冠詞への配慮がある。lesson 6 まではaで徹底的に練習し、lesson 12でtheが登場する。anはもっと後になる。
- ③各レッスンに学習目標となる構文が設定してあり、それを徹底的に反復練習して習得するように編集してある。
- ④1時間の分量は教師の自由裁量に任されている。

#### (c) 『正則文部省英語讀本』への疑問

- ①レッスン毎の学習目標はよいとしてその学習目標自体が何らかの意図のもとに並べられているのだろうか。前述の(b)②は理解できるとしても、例えば現在完了形が意外に早く取り上げられており、過去形、進行形よりも前なのはなぜか。
- ②学習すべき項目をいろいろ取り上げすぎているのではないか。英語を学習する一番初めの教科書としては、現在完了形、進行形、現在完了進行形、比較のうち原級などが取り上げられている。もっと絞りこんで、関連するレッスンを増やしたほうが生徒には有効なのではないか。

(d) 気づき

- ①発音記号も記載されているが Webster 式である。
- ②『英語教授法』では57章と書かれているが実際は52章である。

**【5】 『正則文部省英語讀本』への評価**

実際にこれを旧制中学で使用した市河三喜氏は「会話のひとつひとつに連絡がなく、内容が面白くないのが大きな欠点ある」とするものの「その意図するところ、その編纂法等において当時としては一頭地を抜くもの」であったと評価している。筆者は『正則文部省英語讀本』の編纂意図は十分に『英語教授法』において表現されていると見る。また、確かに対話の連続で、しかも対話どうしが脈絡もなく、ある意味で単調であり、英文を楽しむ余地はない。しかし、この点は巻3から読み物形式になっている。

**【6】 終わりに**

表題とはかなりずれて、『英語教授法』の内容のまとめが本論の大部分を占めてしまった。しかし、『正則文部省英語讀本』を分析をするにあたってどうしてもまとめておかなければならなかった。さらに詳しい分析は別の機会に譲りたい。

**参考文献**

- 外山正一 『英語教授法』 大日本図書 1889  
『正則文部省英語讀本』 大日本図書 1897  
『日本英学事始』 日本ブリタニカ 1976 語研  
『英語教授法事典』 開拓社 1962

『正則文部省英語讀本』に使用された語と初出のレッスン (Aグループ)

1	学校	衣服	食物植物	生活一般	動物	人	自然	代名詞	数字	その他	疑問詞	動詞	形容詞	前置詞	副詞	冠詞	その他	句
1					cat			this			what	is						
2					rat			it								a		
3		hat			bat													
4					hen			that										
5	pen			bed net														
6				pin					tin				big					
7				doll	dog			my			whose							
8			nut	top box				mine										
9	cane		cake	cup tub				yours	gun									
10	slate		plate	rug				his										
11	book		seat					one your			which							
12					pig			she				tame				the		
13												lame						
14							weather					fat						
15					kite							light			yes no			
16						father		he		Taro	who	are			not			
17						mother		you		Yamada	are	am			very			
18						brothers		I										
19						sister		they										
20						son				nest	where			under on				
21			tree	home										in				in front
22			ice rice	stove										at				of
23			water	gate								do	plain	near				
24				house								cold						
25												may						if you
26												study						like
27												play						
28												spin			about			
29												stay			out		if	with
30	knife			razor				none				finish					and	pleasure
31				paper								fly						
32												will	some	with				
33						uncle						give	sorry					
34						aunt						lend						
35	pencil					slave						gave						
36							moon			fee		lent						
37							stars					see						
38							clouds					does						
39												have						
40												has						
41												seen						
42												read						
43												lead						
44												did						is going
45								we	country			saw		to into				to
46								her				went						
47								their										
48										week	when	come		next	to-day			
49										Nikko					there			
50															now			
51															tomorrow			
52								me him										
53								her them						with				
54								us										
55						teacher						gone	only					
56			eggs	cage	crow			one ~										
57		apron						five		hand								an
58		pocket	apple				pond											
59			peaches															
60			plums															
61			oranges															
62			pear															
63				fence								get	small	over				
64														from				
65					bird									beyond				
66								six ~										How
67								ten										many ~ ?
68													happy	till for	so			
69			grapes								how							
70																		
71					ox fowl	boys												or
72					owl	girls												
73										hide and		doing						
74										seek		reading						
75												playing						
76												writing						
77												running						
78												walking						
79												crying						
80												laughing						
81	school		rose			men		its		smell			red					get up
82			flowers					those					kind					
83													beautiful					
84													honest					
85													nice					
86										time		begin						leave off
87						friend		river		work		leave						go to bed
88													been			together		
89	lesson												swimming					
90												shall						go for a
91												think						walk
92												would						
93												learn						
94												must						
95												let						
96										lump		jump			fast		hurrah	
97														high				
98																		of course
99													careful					
100										truth		love			always			
101										hell		respect			hard			
102												tell			more			

各レッスンの中心となる構文 (Target Sentence 一覧) [表 2]

1	What is this?
2	(What is this?) [It is] a cat. [This is] a cat.
3	レッスン2と同じ構文。名詞に rat を使用。
4	レッスン2と同じ構文。名詞に bat を使用。
5	[What is that?] [It is a net.] That is a bed.
6	This is tin. That is a big pin.
7	Whose dog is that? It is my dog. [It is mine.] [That is my dog.]
8	(Whose cup is that?) It is yours. [Is that your cap?]
9	(Whose cane is this?) It is his. [This is his cane.]
10	Which is your hat? [This one.] [That one.] (This is his seat.)
11	REVIEW
12	What is the pig like? [She is tame.] The dog is lame.
13	Is the fan light? Yes, it is. [No it is not.]
14	How is the weather? It is very fine.
15	(Is that your kite?) Yes, that is my kite. [That is her doll.]
16	Who is she? She is my sister. [I am Yamada Taro.] He is my father. They are my brothers.]
17	Is he your father. Yes, he is my father. [Are you his son? Are they your brothers?]
18	Where is the cat? Under the shelf. [他に on, in を使用した句]
19	(Where is the gate?) In front of the house. [他に by, near, at home を使用した句]
20	REVIEW
21	Do you like very cold water? [I like very cold water.]
22	May they go home? Yes, they may go home.
23	My I stay at home and finish my letter? Yes, if you like.
24	Will you give me some paper? Yes, with pleasure. [No, I am sorry I have none.]
25	Who gave you this pencil? My aunt.
26	REVIEW
27	Can they see the moon? Yes, he does.
28	Does he see the sun. Yes, he does.
29	Have you seen his dog? Has he read my letter?
30	Did you see my father? Yes, I did. Did he see my brother? Yes, he did.
31	Where are you going? I am going home. Where are they going? They are going into the country.
32	Where did you go? I went home. Where did he go? He went home.
33	When are you going home? At once. When will you come to my house? I will come tomorrow. [I shall come to your house tomorrow.]
34	Who went with them? Their mother. Who went with you? Our uncle. [Our uncle went with us.]
35	Has she gone with her mother? Yes, she has. Have they gone with their teacher? Yes, they have.
36	How many cats are there in the house. Only one. There are two.
37	What have they got in the basket? They have got some oranges.
38	Where did they get these apples? From the big apple tree near the bridge.
39	(How many eggs have they got in the basket?) They have got one, two, three, ..., ten.
40	Will you take some apples to your father? Yes, if you will give me some for him.
41	How will you take these apples to your father? (We will take them to him) in our basket.
42	REVIEW
43	Was that pear, or an apple? It was an apple.
44	What is he doing? He is reading a book. Were they laughing, or crying? They are laughing.
45	How beautiful those flowers are! Yes, they are very beautiful.
46	Is it time to begin work? Yes, it is quite time.
47	What have you been doing? I have been flying my kite.
48	Shall I go to school at once? Yes, you must go at once. Yes, I think you had better do so. Let us all go out for a walk.
49	Come on boys! Let us fly our kite! Hurrah! that will be fun.
50	REVIEW
51	Must I be very careful? Yes, of course. Must he study harder? Yes, he must.
52	What should I always do? You should always tell the truth. Whom should I always love? You should always love your parents.

( ) は既習のもの。[ ] はSlate work以外のところから取り上げたもの。

Bグループのうち to be read across に登場する語 [表 3]

5	net,met,bed,fed,hen,men,pen,ten	30	saw.raw.law.gnaw
15	kite,bite,rite,site,my,thy,shy,by	48	all,hall,tall,fall,take,sake,make,lake